

「ふね遺産」(推薦様式)

No.	内 容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物：新愛徳丸 所有者：株式会社愛徳	非現存船
2. 対象物の作成・存在時期	新愛徳丸（建造造船所：株式会社今村造船所） 進水：昭和 55(1980)年 8 月 竣工：昭和 55(1980)年 9 月	平成 2(1990)年 2 月に 売船
3. 現状 (写真添付)		 模型船 (株式会社愛徳所蔵)
4. ふね遺産認定基準の該当項目	【認定対象】(1) 【認定基準】(1)	
5. 歴史的・工学技術的意義	<p>石油危機による燃料価格高騰から船舶の省エネルギー化が求められた 1980 年代に新たに開発された帆装商船。</p> <p>帆を補助推進装置とし、風が利用出来ないときは従来船と同様に主機のみによる通常の航海を行い、適当な風がある場合は推力として主機を助ける機主帆従方式により省エネルギーを図ろうとするもの。</p> <p>帆装置は、鋼製の矩形フレームに帆布を張った矩形硬帆構造とし、展縮・施回機構を装備した。</p> <p>本方式により、燃料消費量の低減に加えて、減揺効果による耐航性の向上、それに伴う稼働率の増加と波及効果も明らかになった。</p> <p>その後、類似の方式による帆装商船の建造が見られ、就航実績も内航船だけでなく 30000DWT の外航船まで、1985 年 1 月現在 16 隻に達した。新愛徳丸はこれらの船の先駆けとなったものである。</p> <p>しかしながら、燃料油価格の低下と共に、新たな帆装商船の建造は見られなくなったものの、地球温暖化の観点でゼロエミッションが海運界にも要求されることから、2022 年に至って、新たなコンセプトの帆装商船の建造が再開された。</p>	
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	日本造船学会誌 第 619 号 昭和 56 年 1 月 日本造船学会誌 第 632 号 昭和 57 年 2 月 日本造船学会誌 第 671 号 昭和 60 年 5 月 日本船用機器開発協会：夢 (昭和 56 年刊行)	